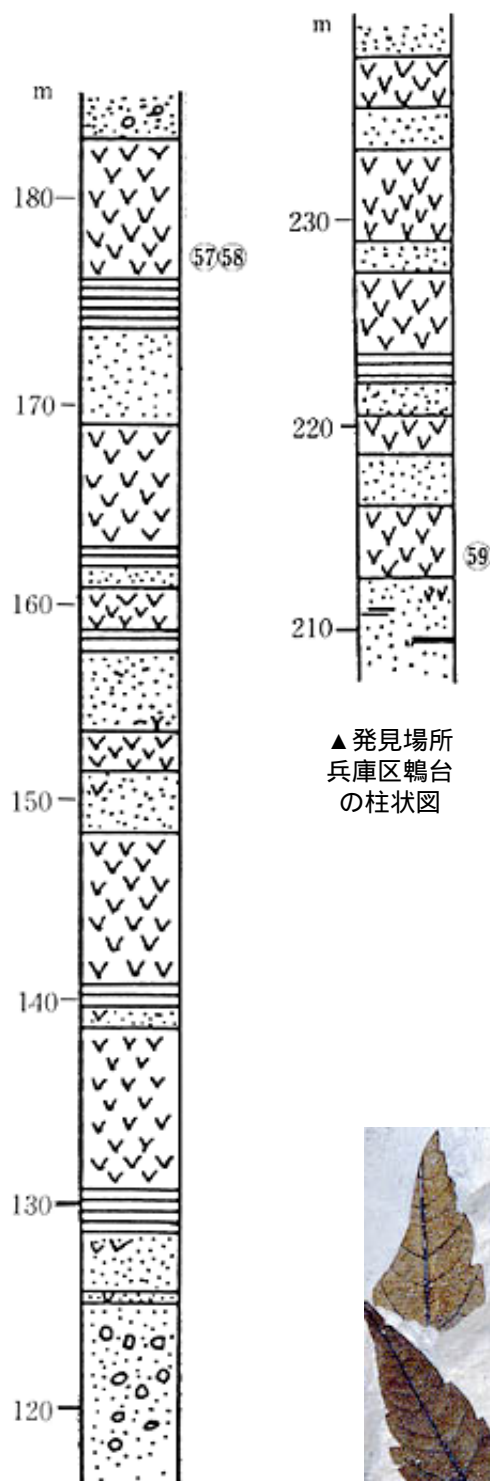


カエデ属 Acer sp.



▲発見場所
兵庫区鶴台
の柱状図

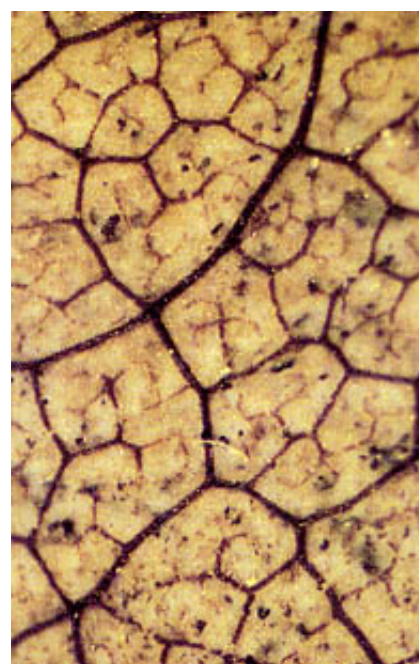
▲発見場所
垂水区名谷町
の柱状図



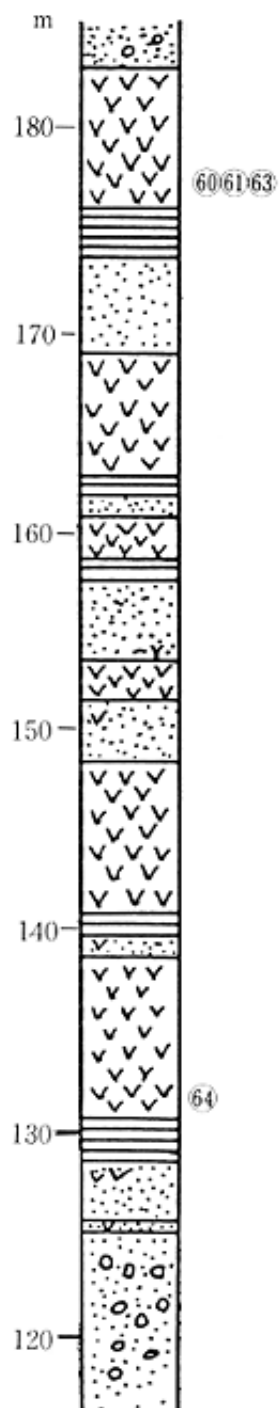
▲フウ属に似るが、のこぎり葉の鋭さと
分泌腺がないので区別がつく



▲三主脈の両側の脈が二
枝脈に分かれるのが特徴



▲下の写真をさらに拡大した。
最終脈は2回わかれしている。



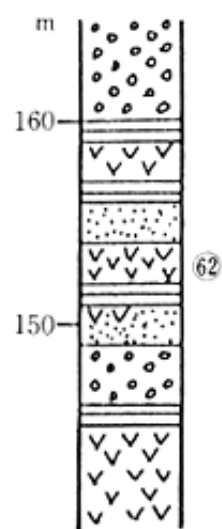
▲発見場所
垂水区名谷町
の柱状図



▲大きな波状の葉の縁が特徴



▲左上の標本の基部



▲発見場所
垂水区名谷町
の柱状図



▲主脈が5本あり、大きなこぎり葉をもつ



▲手のひらが細
長くなったよう



▲プロベラ状の果実



▲プロベラ状の果実



▲三主脈で鋭いの
こぎり葉をもつ

カエデ属

神戸層群にはカエデの仲間の化石も多く発見されており、カエデの特徴であるプロペラ状の果実（翼果）も見つかっている。

現生のカエデ属の葉の形は、卵形のものから掌状葉の形まであり、葉の縁ののこぎり葉も種によって色々と異なる。それだけに化石種の同定も難しい。

私が神戸層群の中からカエデ属と同定できたものは、掌状葉の仲間たちである。これらには、3～5本の主脈を持ちのこぎり葉であるのが特徴である。フウ属とは葉の縁ののこぎり葉の分泌腺によって見分けている。

棚井教授によれば、カエデ属の化石を最終脈が多角形で2～3回分かれているものと、最終脈が1本か、またはないものとを区別し、前者のグループが古いタイプのものであろうとしている。神戸層群のなかからも写真のように、最終脈が分かれているものがみられる。

カエデ属の仲間は、白川累層より多数産出している。

（カエデ科 カエデ属 Acer L.）



デジタル化 神戸の自然シリーズ 16 神戸層群の化石を掘る メニューへ